

日本人被爆者と日系アメリカ人被爆者の活動から平和運動を考える



講師

Gloria R. Montebruno Saller 氏

コメンテーター

根本雅也 氏

ASA(米国広島・長崎被爆者協会)の活動で明らかとなった、原爆投下後日本人被爆者と日系アメリカ人被爆者(幼少期に広島、長崎で被爆)両者の類似性と相違性および、在米被爆者の社会活動について講師から報告をいただき、参加者とともに今後の平和教育や被爆者運動を考える機会としたいと思います。講演は日本語で行います。

講師プロフィール

Gloria R. Montebruno Saller, Ph.D

日本学の学者、研究者。米国ロサンゼルス拠点のASA(米国広島・長崎原爆被爆者協会)名誉理事兼歴史研究員。イタリアに生まれ、アメリカ南カリフォルニア大学で東アジア言語学・東アジア文化学博士課程を修了。1995年から2017年まで、南カリフォルニア大学、カリフォルニア州立大学ロングビーチ校、同大学フラトン校、カリフォルニア大学リバーサイド校、ラバーン大学にて日本語、日本文化学、女性学、国際学を教えながら、国際会議でのプレゼンテーション、学術誌への論文発表など研究者としても活躍。近年は日本在住被爆者と在米被爆者の歴史、またCABSUS(Committee of Atomic Bomb Survivors, United States:米国被爆者委員会)や、ASAを通じて在米被爆者の社会活動に焦点を当てて研究している。



コメンテータープロフィール

根本雅也(ねもとまさや):

立命館大学衣笠総合研究機構プロジェクト研究員。日本学術振興会特別研究員。専門は社会学。

著書・論文:『ヒロシマ・パラドクス 戦後日本の反核と人道意識』(単著) 勉誠出版(2018年)
「証言者になること—広島における被爆者の証言活動のメカニズム」(『日本オーラル・ヒストリー研究』第11号、日本オーラル・ヒストリー学会、2015年9月、pp.173-192)

問い合わせ:

立命館大学国際平和ミュージアム
平和教育研究センター

☎ 075-465-8151

<https://www.ritsumeikan-wp-museum.jp/>

2019

10/25 金

16:30~18:30

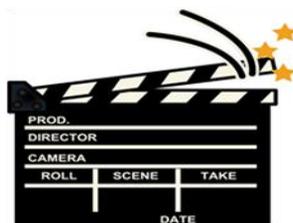
**立命館大学
国際平和ミュージアム**

2階会議室

定員: 50名(申込不要、参加費無料、先着順)



映画会



原爆にちなんだ貴重な館蔵フィルムや2018年の新作映画を上映します。この機会にぜひご来場ください。

開催日

10月26日(土) 申込不要、参加費無料、途中入退室可

会場

立命館大学衣笠キャンパス 充光館地階JK101

10:30-11:00

【館蔵】ドキュメンタリー「もし、この地球を愛するなら」(1982年26分 カラー16mm)

医学的立場から原爆被害を解明することで、自分たちの生きているこの地球を愛するなら、人類の未来を考えるなら、今、何をなすべきかを訴える。アカデミー賞ドキュメンタリー部門、アメリカンフィルムフェスティバル ブルーリボン賞を受賞

監督:テリー・ナッシュ

製作:カナダ国立映画製作所(NFBC) 日本語版 DREAM LIFE CORPORATION

11:00-12:00

【館蔵】ドキュメンタリー「生きていてよかった」(1956年49分 モノクロ35mm)

フィルム提供:日本ドキュメント・フィルム社

反戦映画、記録映画界の巨匠、亀井文夫(1908-1987)監督が描く被爆者映画の金字塔! 平和文化賞、ブルーリボン賞を受賞した名作。

監督:亀井文夫 勅使河原宏 山崎聖教

製作:原水爆禁止日本協議会、日本ドキュメント・フィルム社



(画像提供:共同映画)

13:00-15:00

【館蔵】劇映画「ヒロシマの証人」(1968年120分 モノクロ16mm)

1960年代、原爆症で倒れ亡くなる者が後を絶たない被爆者たちと戦後のヒロシマを描く。

監督:斎藤和彦

製作:「ヒロシマの証人」製作上映実行委員会

15:15-16:30

映画「西から昇った太陽」(2018年75分)

水爆実験に遭遇するという恐ろしい出来事が漁師たちにもたらした苦悩と人生の困難を、当時を体験した第五福竜丸の乗組員3名のインタビューと1000枚を超えるイラストによるストップモーションアニメで再現した。

監督・プロデューサー:キース・レイミンク

